

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570200818
法人名	社会福祉法人 恵愛会
事業所名	グループホーム めぐみ
所在地	都城市太郎坊町563番地2 (電 話) 0986-38-8811

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年8月25日

【情報提供票より】(20年 7月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	17 人

(2) 建物概要

建物構造	準耐火鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000円		その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)		☒ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ☒ 無		有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	230円	昼食	500円	
	夕食	500円	おやつ	150円	
	または1日当たり円				

(4) 利用者の概要(7月 25日現在)

利用者人数		18 名	男性 5 名		女性 13 名
要介護1		4 名	要介護2		6 名
要介護3		4 名	要介護4		2 名
要介護5		2 名	要支援2		名
年齢	平均	87 歳	最低	70 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂元医院 東歯科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

都城市の郊外で、雄大な田園風景が広がる景況に恵まれた場所にホームは立地し、同一法人が経営する特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、訪問介護事業所が併設されている。近隣には民家がなく地域住民との交流は少ないが、ダンベル体操や民謡教室、陶芸教室、歌唱指導等ボランティアを積極的に受け入れ交流している。利用者は、平均年齢が87歳と高齢のわりに元気で生きいきとしており、職員も明るく親切で利用者中心のケアが実践されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果は、運営推進会議に報告し、職員間でも話し合いを行い、理念の見直し等、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は、自己評価のねらいと意義を理解しており、評価の過程を通じて、サービスの質の確保・向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2か月に1回開催し、利用者及び家族、地域代表、市の担当者等幅広い立場の人が参加し、運営状況の報告や災害時の対応等について具体的な話し合いを行い、サービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に職員が家族に必ず声をかけ、気軽に意見や苦情が話せる雰囲気づくりに努めている。また意見・苦情処理簿に家族の意見や苦情が詳細に記録され、それらを活かし運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣に民家がなく地域住民との交流は少ないが、花の手入や陶芸教室、民謡教室、歌唱指導等多くのボランティアを積極的に受け入れ交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、利用者が地域の中で安心して暮らし続けることができる支援を基本とした、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎日のミーティングや職員会議で理念について話し合い、共有して日々のケアに活かす取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に民家がなく地域住民との交流は少ないが、花の手入や、陶芸教室、歌唱指導、民謡教室等、多くのボランティアを積極的に受け入れ、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は、自己評価及び外部評価のねらいと意義を理解しており、評価を活かしたサービスの質の向上に全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回開催し、利用者及び家族、地域代表、市の担当者等幅広い立場の人が参加し、運営状況の報告や災害時の対応等について、具体的な話し合いを行い、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、運営状況の報告や当面の課題等について、いつでも気軽に相談できる関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の暮らしぶりや健康状態は、家族の来訪時にきめ細かに伝えている。また、金銭管理は毎月明細を送付し、ホーム便りも年4回発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に職員が必ず家族に声をかけ、気軽に意見や苦情が話せる雰囲気づくりに努めている。また、意見・苦情処理簿に家族の意見や苦情の記録があり、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が若干多いが、運営者は、離職を最小限に抑えるために、働きやすい職場づくりに努めている。また、離職による利用者へのダメージがないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には、出来るだけ多くの職員が参加できるように配慮している。また、毎月法人内で勉強会を行っている。		
11	20	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県グループホーム連絡協議会に毎回参加して、勉強会や、情報交換を行い交流を深めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が自宅や施設を訪問したり、利用者と家族と一緒に体験宿泊をする等、徐々にホームの雰囲気に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から日々の生活の中で方言や昔の歌、野菜づくり、梅干づくり等、多くの事を学びながら信頼関係を築き、共に支えあっている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の日々の行動や表情の中から、希望や思いを把握できるように努めている。また、家族とも話し合い、情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、管理者を中心に全員で話し合い、家族の意見や関係者のアイデアを反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3か月ごとに評価を行い、6か月ごとに見直しを行っている。また、状況の変化が見られる場合は、随時見直しを行っている。	○	介護計画は、3か月に1回以上の見直しと、月に1回程度は新鮮な目で本人や家族の意向や状況の確認をお願いしたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、通院や外泊、買物等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医院をかかりつけ医としており、月に2回の往診や健康診断もを行っている。また、いつでも気軽に相談や受診が出来る体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、本人や家族、関係者との話し合いや方針が出来ていない。	○	利用者や家族、関係者と終末期のあり方について、充分話し合い、関係者全体の方針の共有を図ってほしい。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りや人格を損ねるような言葉かけや、態度がないように細心の注意をして対応している。また、個人情報保護法の理解にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調や希望にそって、自分のペースで、自由に暮らせるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に同じテーブルを囲んでの食事や準備、後片付け等、食事を楽しむ支援が出来ていない。	○	職員と利用者が同じテーブルを囲んで、同じものを一緒に楽しく食べることが出来ないか、検討をしてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回としているが、希望があればいつでも入浴できるように支援している。また、浴槽に入るのが困難でシャワー浴を利用している方には、うち1回は特養での機械浴を利用し、ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の体操や足サッカー、風船バレー、ちり紙たたみ等、一人ひとりの楽しみごとを作り出す働きかけを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望にそって、近所の散歩、買物、デイサービスの利用、外食等出来るだけ戸外に出かけられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には、鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	水害で大きな被害を受けた経験があることから、年に4回法人全体で、防災訓練を行っている。	○	非常災害時の対応は、職員だけでは限界があるので、地元消防団や警察、地域住民の協力が重要であり、日ごろから協力が得られるように働きかけをしてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分量は、毎日チェック表で管理しており、管理栄養士の指導も受けている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は、全体的に広々としてゆとりがあり、畳の居間やソファがバランスよく配置され、食卓には季節感あふれる花が飾られる等、家庭的で落ち着いて生活できるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や仏壇、家族の写真、身の回りの小物等が持ち込まれ、居心地よく安心して生活できるように工夫されている。		